

平成 25 年 7 月 1 日

徳島大学蔵本地区の学生の皆さんへ

医学部長 苛原 稔
歯学部長 市川 哲雄
薬学部長 大高 章

蔵本地区における学生の感染症に対する対応について

蔵本地区は各学部・大学院の教育研究棟と大学病院が近接している。このため、患者等への感染拡大の防止を目的として、学生は感染症に対して下記の対応をとること。外来・入院患者、高齢者等の免疫力低下が考えられる者、あるいは免疫力の弱い乳幼児との接触の可能性がある実習を行う学生（以下、臨床実習学生）については、特に注意すること。

参照：http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1334054.htm

記

1. インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎（ムンプス）、水痘・帯状疱疹、結核、百日咳、流行性角結膜炎（EKC）、咽頭結膜熱、髄膜炎菌性髄膜炎を発症した場合（可能性がある場合を含む）

1) 学生から大学への連絡：学生は、所属する学部の担当部署（下記）ならびに臨床実習学生は当該実習責任者に、すみやかに電話で連絡・相談し、原則として2）に従い、欠席あるいは自宅待機等の対応指示を受ける。

- ・医学部学生，医科学・栄養生命科学・保健科学大学院生：学務課学生係(088-633-7982, 7030)
- ・歯学部学生，口腔科学大学院生：歯学部学務係(088-633-7310)
- ・薬学部学生，薬科学大学院生：薬学部学務係(088-633-7247)

2) 出席停止期間：

一般には学校保健安全法による出席停止期間に従うが、臨床実習学生は徳島大学病院スタッフマニュアルの発症者の就業制限期間の規定に準じる。

「〇〇した後△日を経過するまで」とした場合は、「〇〇」という現象が見られた日の翌日を第1日として算定する。

(1) インフルエンザ（鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザを除く）

＊「発症」とは発熱を目安とする。

- ・臨床実習参加停止期間：発症した後5日を経過し、かつ症状が消失し、解熱した後2日を経過するまで。
- ・学生の出席停止期間：発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日を経過するまで。

(2) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ

- ・臨床実習参加停止期間：治癒するまで。
- ・学生の出席停止期間：治癒するまで。

- (3) 麻疹
 - ・臨床実習参加停止期間：発疹が出現後7日後まで。
 - ・学生の出席停止期間：解熱した後3日を経過するまで。
- (4) 風疹
 - ・臨床実習参加停止期間：発疹出現後5日後まで。
 - ・学生の出席停止期間：発疹が消失するまで。
- (5) 流行性耳下腺炎（ムンプス）
 - ・臨床実習参加停止期間：耳下腺腫脹9日後まで。
 - ・学生の出席停止期間：耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。
- (6) 水痘・带状疱疹 *いずれの場合も**病変部の露出を避ける**こと。
 - ・臨床実習参加停止期間：水泡痂皮化形成終了まで（**水痘，带状疱疹とも**）。
 - ・学生の出席停止期間：すべての発疹が痂皮化するまで（水痘のみ）。
- (7) 結核
 - ・臨床実習参加停止期間：病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
 - ・学生の出席停止期間：病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
- (8) 百日咳
 - ・臨床実習参加停止期間：内服開始から7日間
 - ・学生の出席停止期間：特有の咳が消失する、または、5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療終了まで
- (9) 流行性角結膜炎（EKC）
 - ・臨床実習参加停止期間：発症後2週間
 - ・学生の出席停止期間：病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで
- (10) 咽頭結膜熱
 - ・臨床実習参加停止期間：主要症状が消失した後2日を経過するまで。
 - ・学生の出席停止期間：主要症状が消失した後2日を経過するまで。
- (11) 髄膜炎菌性髄膜炎
 - ・臨床実習参加停止期間：病状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。
 - ・学生の出席停止期間：病状により学校医等において感染のおそれがないと認めるまで。

2. インフルエンザ（季節性，新型あるいはA型，B型）に対する対応

- 1) インフルエンザ感染に関しては下記の一般的注意を遵守する。
 - ・うがい，手洗い，咳エチケットを励行する。人混みを避け，混み合った場所ではマスクを着用する。
 - ・症状のある人に近寄らない。
 - ・インフルエンザ感染の有無に関わらず，ごく軽微な発熱，咳，咽頭痛，鼻水のみの場合であっても，症状がわずかでもあれば常時必ずマスクを着用する。
- 2) インフルエンザ感染者と濃厚接触した場合
 - ・**濃厚接触とは「双方がマスク無しで2メートル以内の接触」（接触時間を問わない）および**

症状出現前日から発病後5日目までの接触が該当する。

- ・ 接触後5日間は、常にマスクを着用し、咳エチケット励行、毎日繰り返し体温を測定する等、感染拡大防止と体調チェックに特に努める。
- ・ 当該臨床実習責任者と相談し、マスクを装着していても、免疫力低下のある人や患者との濃厚接触は控えるなどの対応を行う（医療面接や診察を行わない、接触を避ける）。

- 3) 発熱、咳、咽頭痛、鼻水、倦怠感、下痢、嘔吐等のインフルエンザ感染症を疑う症状がある場合
- ・ 程度や診断確定の有無によらず、臨床実習責任者に電話で相談し、欠席・自宅待機等の指示を受ける。
 - ・ 37.5度以上の発熱時は、医療機関において診断を受ける。診断結果にかかわらず、解熱後2日を経過するまでは、臨床実習学生は実習に参加してはならない。
 - ・ 38度以上の場合：インフルエンザと同じ対応をとる（医療機関によりインフルエンザが完全に否定された場合を除く）。
- 4) インフルエンザ（疑いを含む）に罹患した場合
- ・ 各学科の教務担当部署に電話で連絡する。その際に症状出現前日から発病後5日目までに不特定多数と濃厚接触した事実がある場合は、学生はその旨を伝える。
 - ・ 学生は濃厚接触した相手にインフルエンザ罹患について連絡し、上記2)の対応を取るよう依頼する。
 - ・ 臨床実習参加停止期間および出席停止期間は、上記1の2)の規定に従うこと。

附記：臨床実習学生はインフルエンザワクチンの接種を受けることを推奨する。また、接種状況調査をするので、それに回答すること（結果は徳島大学病院感染対策部門に提出される）。

3. 臨床実習学生が麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎（ムンプス）発症者と濃厚接触した場合の対応

- 1) 当該疾患についての抗体価が不明な場合は医療機関を受診し、すみやかにその抗体価を検査する。
- 2) 抗体価が判明するまで、および抗体陰性の場合、潜伏期間と感染期間を考慮して、感染性を持つ可能性がある期間については、当該学生は下記の対応を行う。
- (1) 常時、外科用マスクを着用する。
 - (2) 免疫不全患者との接触を特に避ける（医療面接や身体診察等を行わない）。
 - (3) 体調管理に特に留意し、症状出現時は最寄りの医療機関を受診し、発症時にはすぐに所属する学科の教務を所掌する部署に連絡する。

注) 感染性を持つ可能性がある期間は下記とする

麻疹	初回暴露 5日～最終暴露 21日
水痘	初回暴露 10日～最終暴露 21日
風疹	初回暴露 7日～最終暴露 21日
流行性耳下腺炎（ムンプス）	初回暴露 12日～最終暴露 21日

- 3) 麻疹および水痘については、医療機関を受診し、暴露早期の発症予防について、専門医の判断を受けることを当該学生に推奨する（下記を参考とすること）。
- (1) 麻疹は72時間以内のワクチン接種（ただし免疫不全者、妊婦には禁忌）または6日以内のグローブ

リン投与が発症予防に有効とされている。

- (2) 水痘は 120 時間以内のワクチン接種（ただし免疫不全者、妊婦には禁忌）、96 時間以内のグロブリン投与、暴露後 10 日からアシクロビルの内服が発症予防に有効とされている。

附記：臨床実習を開始するまでに麻疹、水痘、風疹、流行性耳下腺炎（ムンプス）の抗体価を検査し、抗体陰性の場合は、臨床実習開始までにワクチン接種を推奨する。

4. 臨床実習学生に関する附記事項

- (1) 口唇ヘルペス（単純ヘルペス）

臨床実習責任者への連絡・相談を行い、痂皮形成終了するまで、手指衛生の徹底とマスク着用（病変部の露出を避ける）を行うことで、原則として臨床実習参加は可とする。

- (2) マイコプラズマ肺炎

現時点では明確な出席停止期間の規定がないため、主治医、講義・実習責任者等と相談すること。特に発熱や激しい咳がある場合は、臨床実習への参加を控えること。

- (3) ノロウイルス

症状が持続している間は実習に参加しない。症状消失後も 1 か月程度は便からウイルスが排出されるため、その期間は、特に流水と石けんによる手指衛生を徹底する。